

まつばら歴史さんぽ

祭り紀行

vol.6



柴籠神社「御神燈」(上田7丁目)

まつばらの社會一年中行事歳時記
我堂八幡宮の湯立神楽



我堂八幡宮の湯立神楽

2月3日

湯立神楽の中でもくわらの明治期以降の流派の家元・富永正千代をおばに持つのが我堂八幡宮の宮司の坂野。湯立神楽は、盆で湯を煮えたぎらせ、中に芋や豆類を浸し、その湯を撒くもの。煮かれた湯と湯沫を浴することで無病無災や五穀豊饒などが願われる。我堂八幡宮では毎年部分の日、辰巳時から本殿前、縮輪社前、ご神木の樺を祀る政広大神前の3か所に湯立舞をくべた釜がすかれ、富永流の湯立神楽が行われる。

中面 MAP ②



三宅龍王講の節分大護摩

2月3日

佐倉神社 西南角に位置する、三宅の龍王講が役行人を祀る行者堂での「節分修祓紫耀大護摩」は、毎年多くの参拝者が詰めかける。夕刻頃、山代姿の先遣らが駆け出、行者堂に向かい般若心經を唱え、佐倉神社本殿前や北側の酒屋神社でも絶続。再び堂前に戻り、旅の先遣の使者と地元宿場主の使者で「山伏問答」を行う。その後「弁派の便川」「法劍之儀」「法弓之儀」を行い、護摩壇に点火。人々の願いが書かれた護摩木が投入される。



中面 MAP ⑨



もみじ神社の梅まつり

2月下旬～3月上旬

枝垂れ桜が有名であるもみじ神社では、境内に色々と色とりどりの梅が咲き競い、毎年「梅まつり」が開かれる。早春の土曜日・日曜日(2日間)、参拝者がお茶席や琴の演奏などを楽しむ、境内が賑わう。祭神の源氏原道真が九州・大宰府(福岡県)に左遷され、当地で京都の邸宅の梅をなつかしたことから、九州の梅も植えられている。境内には神宮寺の梅松院(明治初期に廃寺)もあって、神仏の多くの文化財を蔵す。



中面 MAP ⑨



三宅で続くお名号会

3月28日

江戸後期以降、三宅の真宗大谷派の三ヶ寺(普長寺・久久寺・玉應寺)が順回りで毎年1月1日ずつ、親鸞聖事と称するお名号の拜讃をお勤めを行う。鎌倉初期の久遠寺(1191)、土佐宗開家の親鸞が比叡山から聖徳太子廟のあった岩巣の巖福寺(太子寺)に参拝途中、三毛を通過し、同地の妻屋姫(二立ち寄り)の命に起り、妻屋姫では、親鸞に願い立南無阿彌陀佛の六字名号を書きいてもらい、屋敷に記ったのが最初だと伝えられている。



中面 MAP ⑯



来迎寺の弁財天大会式

4月3日

融通念仏の古刹・来迎寺の守顕室に祀られる弁財天は、寺伝によると大宝年間(701~707)に31歳の小角の眞言山の弁財天を影っぽたといい、のち、融通念仏の祖の中である法安が弘法天年(1211~1233)に仏龕裏の当寺に記したある。江戸時代以降、弁財天法要が行われ、毎年4月1日から大般若経転や護摩供修養のあと、市内随一のものまき行事が盛大に行われ、多くの参拝者がでぎわう。



中面 MAP ⑯



柴籠神社の歯神祭

8月8日

柴籠神社には、合祀されている柴籠神社前に「歯磨き面」が設置され、さわると歯痛にならないと人々に信仰されている。毎年8月8日、午後8時8分、境内に設置された400灯の電灯がともり、大阪府下唯一の歯磨き面の祭事が行われる。祭神の反正天皇は歯磨き面によばれ、歯磨きが真珠のように美しく、また丈夫であったことから、のち歯の神として付せられた。



中面 MAP ⑦



布忍神社の親月祭

旧暦の8月15日

旧暦の8月の名月に当たる8月15日(末に9月中旬)に、午後7時より境内の石舞台にて神事が執り行われる。芸能奉納ののち御脚運に月を写すことで、満月を駆け付ける幸運を得る。参拝者は、月を写し飲む姿は滑稽と見えるが、これもまた一例である。毎年、さまざまな演者が芸を披露し、多くの参拝者でぎわう。現代アーティストのイタチヒラコとコラボして「恋しくじ」が大人気で、全国から参拝者が訪れる。



中面 MAP ③



大林寺のお十夜と数珠くじ

10月17日

お十夜(生産淡季)「五段腰懸」を祈る融通念仏の念仏会のこと(午後7時)、仏教經典に人生の往生世界において善行を行って十日間の間断することとは、仏教の理想世界において千年期間修行を実践することよりも勝っているといふ。法要は神が見られ神事屋に因る数珠つなぎの百以上の大玉を順に手で回し、人々の安寧などを祈る数珠くじが行われる。大林寺の十一面觀音像は平安時代後期の作で、市指定文化財。



中面 MAP ⑩

まつばらの社會一年中行事歳時記
松原市域で受け継がれる歴史ある祭りや年中行事を巡ってみませんか。



発行: 松原の歴史を知る会 松原市上田5丁目4-1 / (-財)松原市文化情報振興事業団(ふるさとあづあプラザ)

協力: 松原市 発行日: 2018年7月1日

*既シリーズ「道しるべ紀行」(2014年) / 「樹木紀行」(2015年) / 「史跡・文化財紀行」(2016年) / 「水辺の野鳥紀行」(2016年) / 「松原名所ふらり紀行」(2017年)



秋祭りの季節になると、市内でも車や自転車で、市内でも車や自転車で、駆け巡ります。柴籠神社の絵馬堂前に一対の灯籠が見られます。一基とも立派の氏子たちが寛永四年(1627)九月に「御神燈」をして奉納したものですが、場所によっては、文字が見られない神社に参入した地車を置いた所といわれています。江戸時代後半頃から祭礼に地車が登場したようですね。ただ、最初は今のような型ではなく、飾り台や練り物のようなものでした。

市域で現存最古の地車は、明治十四年(1881)製作の布忍神社の更池地車ですが、平成三十年六月に入魂式を行った阿保の阿保地車も明治期の製作です。また、河合神社の河合地車は昭和六年(1931)製作の豪華なものです。

まつばら歴史さんぽ 「祭り紀行」

*祭礼・地車運行、ふとん太鼓進行、神開進行の日程については、地域・年度によって異なりますので各社は町会などにご確認ください。



① 阿麻美許曾神社 あみこじんじゃ

素戔嗚命を祀る。大正元年間(806~809)の創建で、天美地区の氏神。明治初年に神宮寺があったが、境内に行基菩薩安住地主の御神体が置かれている。

[夏祭り] 7月16日、17日 [秋祭り] 10月16日、17日

大阪市東住吉区矢田7丁目6-18



② 我堂八幡神社 いかどうはちまんしゃ
品川創立(応永天祖)を祀る。厄除宮として有名。江戸時代から昭和初期にかけて若者たちが駆けめぐらし八幡坂下「明治石」(龍王石)などの力石が数多く残っている。

[夏祭り] 7月15日 [秋祭り] 10月15日 [地車運行] 祭り当日か直前の土曜・日曜 天美我堂4丁目11-20



③ 藤名寺 とうめいじ
淨土真言本願寺、本堂は12世紀前半の文化・文政年間の建築。更埴寺は更埴地区の藤名寺から分出する。安政5年(1858)や明治33年(1900)に本堂が修復される。西岡第三郎が又一門が更埴地車をけでた。藤名寺は市内でも最も古く、本堂や門の形態も施工した感があるといつう。

[夏祭り] 7月19日、20日 [秋祭り] 10月14日、15日 [地車運行] 祭りの直前か直前の土曜・日曜 北新町2丁目4-11



④ 丹南天満宮 たんなんてんまんぐ
菅原道真を祀る。安土桃山時代の流れをくむ三社連合の本廟は市内でも最古級。丹南屋本舗も宿した。

[夏祭り] 7月19日、20日 [秋祭り] 10月14日、15日 [地車運行] 祭りの直前 当日 丹南町4丁目6-648



⑤ 蓬萊神社 ぱらじんじゃ
18世紀後半の山口北島家の代官屋敷の跡地。蓬萊寺と並んで天保11年(1830)に再建された。西面は隣の蓬萊神社を眺める。境内の御神体神社も有名。

[夏祭り] 7月19日、20日 [秋祭り] 10月10日、11日 [地車運行] 秋祭りの直前か直前の日曜 上原7丁目12-22

0 1km

